

文化財センター通信

【かぎぐるま】

# 風車

第 39 号

平成20年3月7日発行



紀州の歴史と文化の風

財団法人 和歌山県文化財センター

かつらぎ町内における京奈和自動車道（紀北東道路）関係の遺跡発掘調査は、平成18年度から実施しており、紀北地域では最大規模の発掘調査を行っています。昨年度は弥生時代から古墳時代の集落跡、古代の水田跡などが検出されました。また弥生時代の石剣や絵画土器、古墳時代の下駄などが発見され、県内でも出土例の少ない貴重な調査成果を得ることができました。

今年度も5月から丁ノ町・妙寺遺跡において、また10月から西飯降Ⅱ遺跡で、それぞれ第2次調査を開始しました。今回は丁ノ町・妙寺遺跡を中心に、調査成果を報告します。

## 京奈和自動車道遺跡の発掘調査 「丁ノ町・妙寺遺跡を中心に」その3

### \*丁ノ町・妙寺遺跡の調査

調査面積は約18,000㎡で、調査区は西から順に1～4区として設定しています。これまでの調査で、東側の3区と西側の1区を中心に、縄文時代、弥生時代、古墳時代にかけての集落跡や平安時代の建物群、中世の工房跡、各時代の川跡など多彩な発見がありました。

### \*3区・4区

東端の3区・4区では、縄文時代、弥生時代、古墳時代の各時代の集落跡、平安時代の川跡など、長期間にわたるさまざまな遺構が見つかりました。



調査位置図

### — 第39号の主な内容 —

1. 京奈和自動車道遺跡の発掘調査 — その3 —  
「丁ノ町・妙寺遺跡を中心に」
2. 【コラム考古学の散歩道15】  
丁ノ町・妙寺遺跡出土の磨製石斧  
— 北陸産蛇紋岩石斧の出土最南端か —

縄文時代後期（約4500～3000年前）のまとまった集落跡は、和歌山県内では貴重な発見となりました。竪穴住居4棟のほか、土器棺墓<sup>ぼ</sup>、配石・集石遺構が見つかりました。土器棺墓には、紀ノ川流域産の結晶片岩を標石として置いていました。また北陸産と思われる蛇紋岩製の磨製石斧<sup>ませいせき</sup>1点と、二上山産サヌカイト製の石器や多数の石材が出土しました。

弥生時代中期（約2200～1900年前）は住居跡2棟と、谷筋の



■ 3区縄文時代後期の集落跡

川跡に落ち込んだ大量の土器が見つかりました。集落の中心は調査区外の南側に広がるようです。弥生時代後期（約1900～1700年前）は住居跡4棟があり、このうちの1棟は、長辺約6mの長方形で6本柱をもつ珍しい形の住居です。隣の西飯降Ⅱ遺跡でも、弥生時代中期から後期にかけて集落が営まれており、この地域における弥生時代のムラの景観が明らかになりました。

古墳時代初頭（約1700年前）は、溝や土坑がありますが調査区内で住居

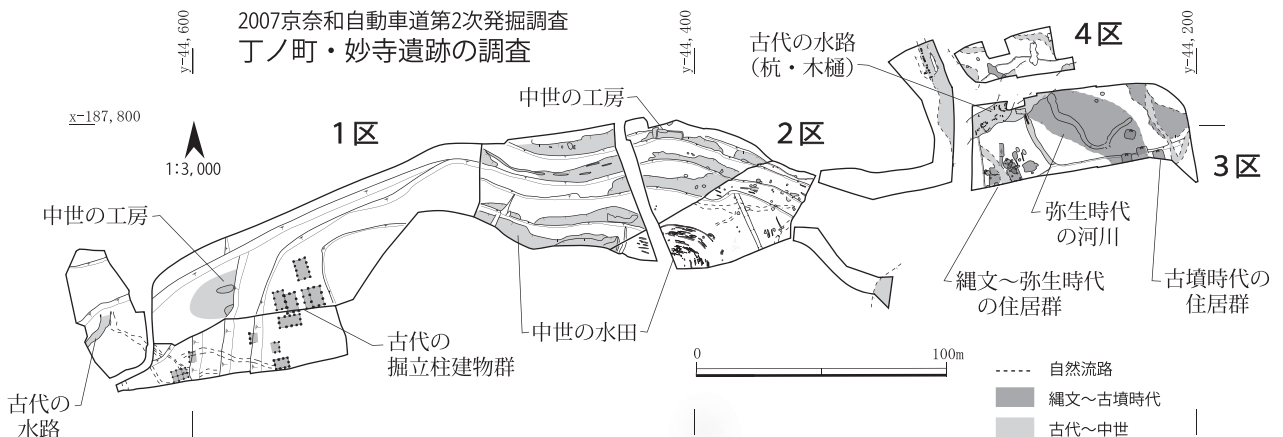


■ 3区弥生時代中期の川跡の土器出土状況

跡は見つかりませんでした。古墳時代後期（約1500～1400年前）になると、再び集落が営まれ、カマドをもつ住居4棟が見つかりました。平安時代後期（約1000～900年前）は、谷筋に直交する幅約7m、深さ1mの水路跡が見つかりました。川底や岸には、水量調節のために、杭が多数打ち込まれています。また、この水路から南方へ分流する溝には、木樋が設置されていました。木樋は長さ約4mで、角材を割りぬき木の蓋をしたものです。1049



■ 3区古墳時代後期の竪穴住居跡





3区平安時代後期の木樋出土状況



2区鎌倉時代の工房跡



1区平安時代前期の掘立柱建物群



調査地上空から東（奈良方面）を望む

年（平安時代後期）には高野山領の莊園として官省符莊が成立し、河北方・河北方・下方と広大な莊園に拡大したことが知られています。当遺跡が属する下方の妙寺条里区も古代末期には開発されていたと考えられ、3区の水路跡はその用水路でしょう。

＊1区・2区

調査区中央の2区では縄文時代の土坑や、中世の水田跡、炭焼き場と考えられる工房跡があります。また2区の東端では、谷筋を流れる川跡

が見つかり、中世に護岸のための石積みをつけています。

調査区西側の1区では、平安時代の建物跡と、鎌倉時代の建物や工房跡が発見されました。平安時代前期（約1200～1100年前）の掘立柱建物は8棟見つかりました。それぞれ20～60㎡ほどの面積で、軸方向を同じくして規則的に配置され、2時期にわたります。なかには、片側に底がつく大きな建物もあります。また出土した土器には煮炊きに向う甕が少ないことから、居住空間

というよりも、公的な性格がうかがえます。建物群は、調査地南方で確認できる条里地割と同じ方向で配置されており、条里制（古代の土地区画・管理制度）に関係する施設のような建物が発見されたのち、鎌倉時代（約800～700年前）には、水田が営まれ、山際に炭焼き場と考えられる工房が設けられます。輸入陶磁器である青磁や白磁も多く出土しており、周辺に大きな屋敷が存在したかもしれません。

（富永 里菜）



出土遺物

## 丁ノ町・妙寺遺跡出土の磨製石斧

### －北陸産蛇紋岩石斧の出土最南端か－

かつらぎ町<sup>ちやうのまち みやうじ</sup>丁ノ町・妙寺遺跡の発掘調査では、今から約4000年前の縄文時代後期の集落跡が発見されました。縄文土器や大量の石器が見つかり、当時の生活を考える上で貴重な成果を得ることができました。

そのなかでも、今回紹介する磨製石斧<sup>ませいせきぶ</sup>は、縄文時代の竪穴住居から出土した石で作られた斧です。全体を丁寧に磨き上げて作られた精巧品で、刃先は使用途中に壊れたのでしょうか、欠けています。

この磨製石斧は触るとツルツルした感触があり、手にもってみると思ったよりも重量があります。この磨製石斧の石材を専門家に見てもらいましたところ、蛇紋岩<sup>じやもんがん</sup>という種類の石材であることがわかりました。蛇紋岩は緑色、黒色、灰色などのしま模様がヘビ皮の文様のように入った岩石で、粘り強く割れにくい性質をもち、研ぐことにより簡単に鋭利な刃先を作り出すことができます。

蛇紋岩の産地はいくつかの地域が存在しますが、富山県・新潟県を中心とした北陸地方で、この蛇紋岩製石斧が大量に作られ、各地に運ばれたことがわかっています。丁ノ町・妙寺遺跡出土の磨製石斧は、幅広く刃先に向かって広がり、近畿地方出土の磨製石斧ではあまり見られない形をしています。また、蛇紋岩の質感も富山県のものに似ており、北陸地方で作られた蛇紋岩製石斧の可能性が高いことがわかりました。

北陸産蛇紋岩石斧の類例を探しますと、従来は奈良県橿原市<sup>かしはらいせき</sup>橿原遺跡のものをもっとも南での出土例として知られていました。したがって、今回、丁ノ町・妙寺遺跡で出土した磨製石斧は現在確認されている中では最南端での出土であるようです。北陸地方の富山県から和歌山県かつらぎ町まで直線距離にして約400kmもあり、遠い道を経由して北陸地域から丁ノ町・妙寺遺跡へと持ち運ばれてきたものと考えられます。(田中 元浩)



### 風車 第39号

平成20年3月7日 発行

(財)和歌山県文化財センター

〒640-8404

和歌山市湊571-1

Tel : 073 (433) 3843

Fax : 073 (425) 4595

e-mail : maizou-1@wabunse.or.jp

URL http://www.wabunse.or.jp